

西東京市 図書館だより

平成23年(2011年) 7月1日

第42号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

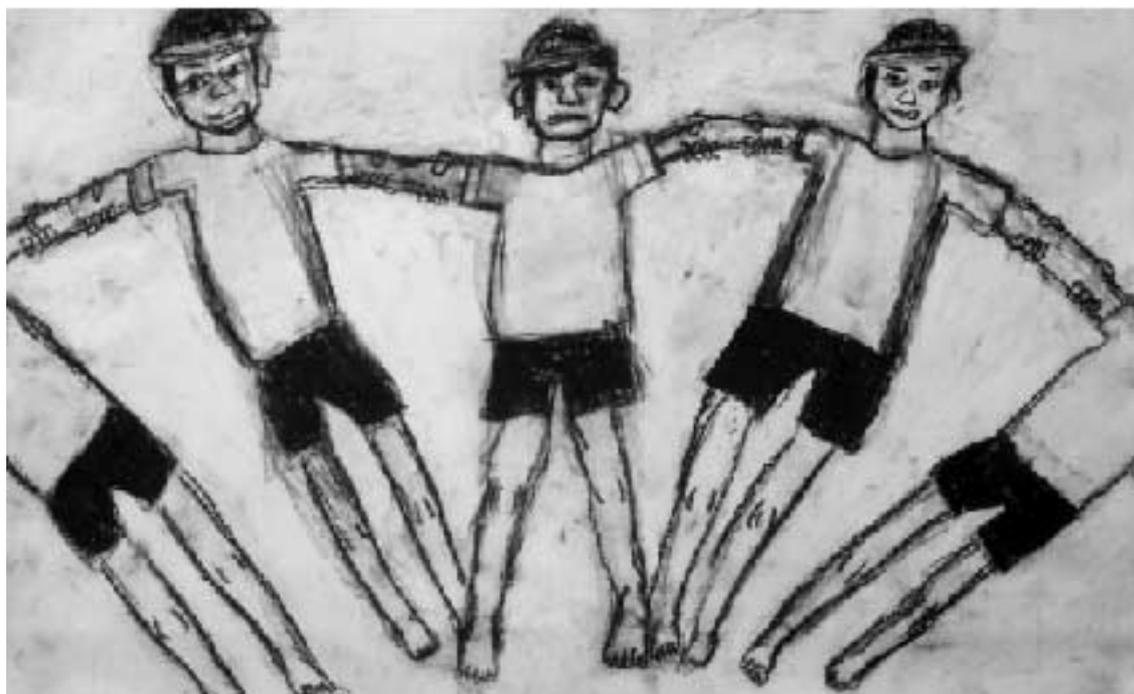
西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



図書館は市民によって 育てられ成長する施設です

西東京市図書館では、市民の創造的学習への援助を行う生涯学習の拠点のひとつとして、六館一分室の施設と職員及び嘱託員の組織体制を十分に活用しながら、市民が期待するサービスの提供に日々、取り組んでいます。

三十六年前、田無市立中央図書館開館時の昭和五十年八月十五日の「たなし市報」に次のような記事があります。『ひとりひとりの生活の中につけてください図書館を』 図書館は、無料でみなさんの生活に役立ち、心楽しませる経験や知恵を、図書館資料として、みなさんが必要とするときに提供するところです。(中略)『図書館はみなさんがつくります』図書館は、みなさんによって(税金で)つくられ、維持される社会機関です。田無市の図書館もみなさんがつくったものです。それゆえ、無料で開放されます。開館したばかりの図書館からは熱い思いがあふれていました。

開館当時と比べ図書館の利用は拡大し、特に、予約・リクエストの申し込みは、中央図書館をみても千件から二十万件と飛躍的な増加となっています。これは、インターネットやモバイルを活用して、図書館サービスのＩＴ化を進めたことが一番の要因です。勤労世代も利用しやすくなりました。

「図書館は市民によって育てられる」という認識は、現在に至るまで引き継がれています。西東京市図書館をつくり、育ててきたのは西東京市民。その市民へのサービス強化を図るため、七月より新しい取り組みを始めます。

一つ目は、東伏見ふれあいプラザにおける図書サービスの開始です。市内五駅の中で唯一、図書館がない東伏見駅周辺にお住まいの方に、予約資料の受け取りや本の返却などをしていただけです。二つ目は、中央図書館への予約棚システムと自動返却システムの導入です。三つ目は、所蔵していない資料のリクエストの受け付けを市内在住者に限定するというサービスの変更です。

これからも、市民のみなさんと一緒に、「私たちの本棚」と感じていただけるような図書館をつくっていきます。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを

「東伏見ふれあいプラザ」で図書サービスをご利用になるときは、次の点にご注意ください。

資料を予約するとき

- ・東伏見ふれあいプラザを受取希望館とする予約の申し込みは、1人3冊までです。
- ・東伏見ふれあいプラザで受け取ることができる資料は、配送が可能な形態の図書・雑誌・紙しばい等の資料うち、2週間貸出を行っているものです。(CD・カセットテープはできません。)

予約資料を受け取る時

東伏見ふれあいプラザで貸出手続きをとるときは、図書館利用カードが必要です。忘れずに持参してください。

資料を返却するとき

西東京市図書館で借りた資料を返すことができますが、次の資料はお近くの図書館に直接お返しください。

- ・他の公立図書館から借り受けた資料
- ・CD、カセットテープ
- ・配送できない形態の資料

※なお、図書館に運ばれ、返却処理がされるまでは貸出中の状態のままです。

利用者用検索機を利用するとき

予約したり、利用状況を確認したりするときは、図書館の利用カード番号とパスワードが必要です。パスワード登録は図書館で行います。ご本人が利用カードを持って図書館にお越しください。

東伏見ふれあいプラザ

所在地 富士町四丁目33番15号飯田ビル1階
 ※西武新宿線東伏見駅北口徒歩1分、西武柳沢駅よりの踏切そば

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 月曜日・年末年始(12/29～1/3)
 ※ただし、月曜日が祝日の場合は翌火曜日、月曜日から祝日が連続する場合は祝日明けの平日が休館となります。

※予約資料の受け取り及び利用者用検索機の利用ができるのは次の時間帯です。

火～金曜日 午前10時～午後7時
 土・日・祝日 午前10時～午後6時

会場には、「地租改正絵図」「大絵図」「検地帳」、修復後初公開となる「田畑其外直段書上帳」、「なつかしの田無・保谷写真パネル」、市域を撮影した「航空写真」(昭和二十年～平成十三年撮影)、「西東京市に関する新聞記事」、「新聞折込広告」、昭和と平成を比較した「教科書」などを展示しました。

さらに、昭和五、六年ごろに保谷市の高橋正雄氏が撮影した映像資料を上映し、昭和五十年代に田無市の古老が歌った「長持ち唄」や「農作業うた」、わらべうたなども録音資料で紹介しました。

また、会場では、合併十周年に併せて一月に発行した『なつかしの田無・保谷(平成十九～二十一年度作成写真パネル図録)』を

- ① 図書館資料の検索
利用者用検索機で市内のどの図書館にどのような本やCDなどがあるか等、調べられます。
- ② 図書館資料の予約
利用者用検索機で館外貸出が可能な図書資料を予約することができます。
- ③ 図書館資料の貸し出し
予約した資料を借りることができません。窓口で受け取り、利用者用検索機で借りることができません。

- ④ 図書館資料の返却
お借りになった図書資料を返却箱に返すことができます。
 - ⑤ 図書館利用状況の確認
利用者用検索機で、ご自分の利用状況が確認できます。
 - ⑥ 図書館情報の提供
利用者用検索機や配布資料で図書館情報をお知らせします。
- その他詳細は、図書館と東伏見ふれあいプラザで配付している案内ををご覧ください。問い合わせは中央図書館までお願いします。

「西東京市誕生10周年を祝う郷土のあゆみ図書館資料展」を開催しました。

三月五日(土)、六日(日)の二日間、にわたり、こもれびホール小ホールで、地域・行政資料室が所蔵する六二〇点の資料を展示して西東京市のあゆみを振り返る企画展を開催しました。今回は、準備の段階から武蔵野大学のインターンシップ生五人が参加し、展示資料の選定や会場の設営・運営・撤収等の作業のほか、クイズラリーや記念ポストカードの作成などの提案もしてもらい、実現しました。



販売しました。二日間の来場者は述べ一五二一人、アンケートで〇～一〇〇%の間で記入していただいた回答では、満足度平均八四・四%という評価をいただきました。「思い出の風景が見られて嬉しい」「まちの発展の様子に驚いた」「大事に保管し子どもたちへ伝えていってほしい」など様々な感想と同時に、展示方法や解説、PR等についても貴重なご意見をいただきました。これからも地域・行政資料室は「郷土に関する専門図書館」をめざして、地域固有の資料を着実に継続して収集・保存し、後世に伝えていきます。

中央図書館の予約資料の受取方法が変わりました。

七月一日より中央図書館にICタグを利用した予約棚システムと自動返却システムを導入しました。予約棚システムとは、利用者が自分で、資料が並んでいる棚から予約した資料を取り、自動貸出機で貸出手続きをとることができるシステムです。自動返却システムは、館内に

設置した自動返却機の返却口に資料が投入されると自動的に返却処理が行われるシステムです。まず、貸出、返却ともに利用が最も多い中央図書館で両システムを導入し、どのような成果があるか、今後、検証してまいります。

予約資料を受け取る時は

用意できた予約資料の確認をします。

予約棚コーナー入口に予約資料案内機があります。予約資料案内機に図書館の利用カードをかざしてください。画面に用意できた予約資料のタイトルと予約割当番号が表示されます。レシートボタンを押して予約割当番号が印刷されたレシートを出してください。



予約棚から予約資料を探します。

予約棚には予約割当番号順に資料が並んでいます。資料には予約割当番号が印刷されたレシートが挟まれています。お手元のレシートに印刷された予約割当番号を元に、ご自分が予約した資料を探してください。

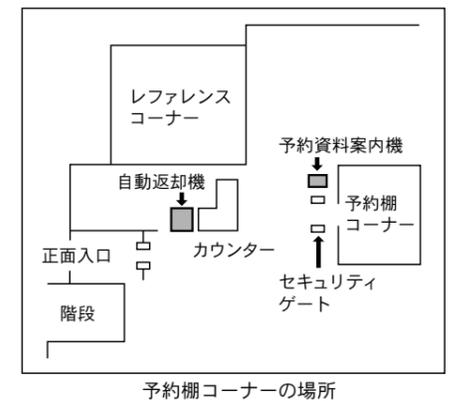
予約資料の貸出手続きをとります。

予約資料が見つかったら、予約棚コーナーの中にある自動貸出機で貸出手続きをとってください。

<ご注意いただきたいこと>

- ・予約棚コーナーに入ることができるのは、用意できた予約資料がある方だけです。
- ・予約資料案内機と自動貸出機を利用するには図書館の利用カードが必要です。お忘れになると借りることができませんので、ご注意ください。
- ・他自治体の図書館からの借用資料など、従来どおりカウンターで貸し出しを行う資料もあります。その場合は、予約資料案内機で受取場所が「カウンター」と表示され、レシートにもそのように印刷されます。

- 借りた資料を返すときは**
- ・自動返却機の返却口に、返す資料を1点ずつ入れてください。自動的に返却処理されていきます。
 - ・返却口に入らない資料はカウンターにいる職員にお渡しください。



「東伏見ふれあいプラザ」で図書サービスを開始します。

東伏見ふれあいプラザが七月二日にオープンします。空き店舗を活用し、地域活性化を目的とした事業を主催する地元市民を中心とした運営団体の活動拠点であると同時に、東伏見駅周辺地域に不足している行政サービスの提供拠点として開設されました。

施設内には、図書館と同等の「利用者用検索機(自動貸出機能付き)」と「返却箱」が設置され、行政サービスの一環として、「図書サービス」を提供します。

西東京市図書館は、合併前の施設を引き継ぎ、鉄道駅に近い四館と住宅地にある二館一分室での効率よいネットワークの整備を進めてきましたが、近くに図書館がない東伏見駅周辺の市民が図書館を利用しやすい環境を整えることが課題でした。他方、図書館は、平成二十年六月からICタグによる資料管理を行っており、自動貸出機の利用も浸透してきています。そこで、今回コンピュータによる情報管理を活用することで、図書館員不在の東伏見ふれあいプラザにおいて、図書館の一部のサービ



「まこちゃん、図書館行こう！」
一歳四ヶ月の娘を連れて、私は週に数回図書館へ行きます。よく利用する図書館は、柳沢図書館です。図書館への道のりは、歩けるようになった我が子と私の散歩コースの一つでもあります。

娘の図書館での楽しみは、自動で本を借りる自動貸出機の所です。図書カードをかざすと「ピッ！」と鳴るところが大好きです。借りた本の名前と返却日が印字されたレシートが出てくるところも大好きです。図書館に着くと、そのコーナーを指して一直線に歩いて行きます。

「まこちゃん、どの本にする？ 本、借りてからだよ」。手近にある本棚に戻す前段階の本コーナーから選ぶことも多々あります(本当はゆっくり絵本選びしたいのに...)。

私の図書館での楽しみの一つは、月に数回ある「ちいさなおはなしひろば」です。絵本を図書館の方や、ボランティアの方に読んでいただくのですが、他の方に読んでもらうのってなかなか良いものです。

「今日はどんなお話かな？」娘

わたしと 図書館



片野 敦子

と一緒に絵本を見ながら、「○○でできたね。おもしろいね」等と時々声をかけながらなのですが、娘は集中して見ていることが出ず、動き回ってしまう時もあり、心の中でため息が出ることもあります。読み聞かせの合間に手遊びがあり、最後に折り紙の時間もあつて、ちよつとした私の息抜き場でもありません。ここで読んでいただいております。

娘が興味を持って見ている本は借りていて家で読みます。ここ西東京市図書館はインターネットで読みたい本の検索や予約も出来るように、私のママ友の一人は「予約していた本が来たから取りに行くんだ」と、会話の中で話が出ることもありません。そのママ友に「どんな本借りたの？」と見せてもらうと、どこの本棚に置いてあるのか予想できない本もあつて、検索や予約が出来るっていいなあと思えました。図書館をこんなふう活用できたら、私ももっとたくさんの本に出会えるなあと思うのですが、なかなか出来ずいます。

リクエスト・サービス 変更しました。

西東京市図書館では、所蔵している資料の予約を受け付けるサービスと所蔵していない資料(視聴覚資料等を除く)のリクエストを受け付けるサービスを行っています。リクエスト・サービスでは、購入するか、もしくは、都内公立図書館から借り受けて、資料を提供しています。

七月一日より、リクエスト・サービスの提供を西東京市在住の方のみに限らせていただきます。

平成十八年度から図書館ホームページ上で未所蔵資料のリクエストを受け付けていますが、年々、その件数は増加し、それに伴い、他自治体の図書館から資料を借用する件数も増え続けています。近隣の市が同様のサービスを実施していない中、今後とも利用の増加が見込まれ、借用資料の配送には限度があるため、安定したサービス提供に支障をきたすことが懸念されます。そこで、二年間かけて、西東京市以外にお住まいの方のリクエストに代えて資料を新たに購入した件数と借用した件数の現状を確認し、対応を検討してきました。その結果、西東京市在住の利用者へのサービス強化を主眼において安定かつ円滑な資料提供に努めるために、今回の変更を行うことになりました。

在住の利用者のみなさまにはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

西東京市以外に お住まいの方へ

六月三十日をもって、西東京市図書館で所蔵していない資料のリクエストの受け付けを終了しました。六月三十日までに受け付けたリクエスト資料は、用意ができた次第、提供します。

西東京市図書館で所蔵していない資料をご希望の場合は、お住まいの自治体の図書館にご相談ください。

なお、西東京市図書館で所蔵している資料(注文中も含む)については、今後とも予約いただけます。

編集後記

予約本の受取待ちで並ぶ利用者の応対中、少し離れた所から「三浦哲郎の本はどこかしら…」と控えめな声。貸し出しや返却処理をする他の図書館員に代わりを頼むわけにもいかず「少しお待ちください」と伝える。中央図書館では、利用者自身に返却本を箱に入れてもらい、予約資料の貸出手続きをもらうようになる。これまでよりもお手間を取らせる面もあるでしょうが、気軽に声をかけてもらえる本来の「図書館の人」に近づけるのではとわくわくもしている。